



第15回日中地域間交流推進セミナー開催レポート ～「北京の水がめ」 陝西省安康市で初の国際会議を開催！～

(一財) 自治体国際化協会北京事務所 所長補佐 永江 兆徳 (京都府派遣)

2016年7月21日(木)、中国陝西省・安康市で「第15回日中地域間交流推進セミナー」を開催しました。このセミナーは日中両国における地域間交流を一層推進するため、クレア北京事務所が主催し、中国外交部等政府関係機関や中国地方政府、日本国大使館、在中国自治体事務所等と連携して行うもので、日中国交正常化30周年を記念して2002年に北京市で開催して以降、毎年1回、これまで中国の13都市において開催してきました。

今回は両国の多くの都市の課題である、自然環境の保護と経済発展の両立について議論するため、「環境資源を活用した持続可能な都市発展のあり方～グリーン発展とエコツーリズム～」をテーマとしたところ、日中双方から合わせて146名の参加者を集め、盛大に開催することができました。以下、本セミナーの開催状況についてレポートします。

「南水北調」の水源保護地域

安康市は陝西省の省都・西安市から南へ約200km(車で約4時間)、重慶市や湖北省に隣接する面積2.35万km²、人口303万人の地方都市です。市内を長江最大の支流である漢江が流れ、土壌中のセレン含有量が多いことから、こんにゃくやお茶などの生産が盛んで、鉱物資源にも恵まれた都市です。

広大な中国では特に北部地域の水不足が深刻化しており、南部の水を北部に運ぶ「南水北調」プロジェクトが進行していますが、安康市は北京や天津まで運ぶ中央ルートにおいて大変重要な位置を占めており、市をあげて水環境保護に取り組んでいます。私たちが首都北京の水を支えている、という市政府幹部の話が印象的でした。

現在、安康市は環境保護と都市発展の両立を目指しており、エコツーリズム施策の拡大に力を入れています。



パネルディスカッションの様子

<日本側講演者>

全国市長会 副会長 (北海道北広島市長)	上野 正三	北広島市のごみ処理やリサイクルへの取組状況等
群馬県下仁田町 副町長	吉弘 拓生	下仁田町の地域資源を活かした自然体験学習等の施策
愛媛県経済労働部観光交流局 局長	宮本 泉	愛媛県が進めるサイクリングを核としたエコツーリズム施策
国際一村一品交流協会 理事長	内田 正	一村一品運動の紹介と地域資源掘り起こしのアドバイス等

<中国側講演者>

中国共産党安康市委員会 書記	郭 青	安康市の紹介
北京交通大学 教授	張 輝	中国における「全域観光」
安康市行政学院 常務副院長	張 寧	安康市の地域資源を活かした発展(グリーン革命)
安康市旅遊局長	曹 輝	安康市におけるエコツーリズムの取り組み

多彩な講演者が登壇

会議では、今回のセミナーのテーマに沿って、ごみ処理やリサイクルの取組事例のほか、サイクリングや森林セラピー、農村体験ツアーなど地域の環境資源を活用した観光施策について発表および議論が行われました。

日本側からの取り組みの紹介に中国側は真剣に耳を傾け、一方、中国側の講演者からは、安康市の豊かな自然環境を活かした「グリーン」なエコツーリズムを推し進めていくという力強い姿勢が伺えました。

会議のまとめとしては、「どのような都市を目指すのか、地方政府がしっかりと方向を定めることが重要」「観光産業は文化・歴史、地域資源と融合させることで魅力に深みが出て、更なる集客につながる」「環境保護との両立を考えながら、交通インフラや受入体制も整備していくことが重要」「地域住民を巻き込んだ、地域住民による主体的な取り組みが重要」と総括されました。

そのほか、会議の合間には、日中文化交流として、日中双方のお茶に関するデモンストレーションが行われました。日本側は裏千家大連出張所のみなさんが、そして中国側は安康市御茶協会のみなさんが、それぞれ伝統衣装を身にまとい、本格的な「お点前」を披露し、会場からは大きな拍手が起きました。

今回のセミナーは安康市にとって初の国際会議となりましたが、豊かな自然に恵まれ循環経済発展都市として注目される同市での開催は時宜にかなったものであり、また多様な講演者による活発な議論や交流が行われたことにより、多くの参加者から好評をいただくことができました。このセミナーをきっかけに今後の日中地域間交流のさらなる活発化が期待されます。



裏千家大連出張所による日本茶道実演



安康市御茶協会による中国茶道実演

JET 経験者との意見交換会

また、クレア北京事務所では、「日中地域間交流推進セミナー」に合わせて、JET 経験者意見交換会を開催しています。これは、同セミナーに中国の地方政府関係者が多く参加していることから、地方政府の JET 経験者を中心に意見交換を行うもので、今回は関係者 22 名が参加しました。

自己紹介の後、テーマに沿って参加者が自由に意見を述べる形で進めましたが、「JET を経験して感じる、日中地域間交流の重要性とは」というテーマでは、「地域間交流は人と人とのコミュニケーションであり、国と国の関係で混乱があったとしても絶えることはないものである」「CIR（国際交流員）は市民であり、お互いの国の姿を偏りなく正しく伝えることができる」「JET を通じて、地方間で WIN-WIN の関係を作ることができる」「他国との交流が増え、日本の存在感が薄くなってきた」といった発言がありました。実際に互いの国を訪れて、面と向かって話をし、それぞれの文化や生活、土地や価値観を直接体感して理解しあうことが重要であると皆さんが感じていました。

もう一つ、「JET 経験者同士の交流・連携のあり方について」というテーマで意見交換を行いました。参加者からは、「韓国への派遣経験者は中国各地で交流会をやっている」「JET の赴任前に経験者も交えた交流会を北京だけでなく各地でやってはどうか」「JIAM での合同研修を帰国直前にも開催してもらえると、帰国後もつながりを維持しやすいのでは」「里帰り事業を是非やってほしい」「現在日本で活躍している CIR を知りたい」など、活発に意見が出されました。



JET 経験者意見交換会での意見発表風景

中国からの JET 参加者はのべ 1,200 名を越えており、今後は経験者同士の連携が求められているところですが、中国では、JETAA（JET 経験者組織）が組織できない状況にあります。そうした中、今年の 5 月には、中国の JET 経験者有志による声かけによって、熊本地震への義援金が集められました。微力ながら熊本のために役に立ちたいと 119 名から約 2 万 5000 元（約 42 万円相当）が集まり、心を込めた寄せ書きとともに被災地へと届けられました。

中国の JET 経験者の大半は、帰国後は各地方政府外事弁公室へ戻り、日本と関わる仕事に携わっています。地方政府において日中交流の最前線に立って仕事をしている JET 経験者から直接、交流事業の課題や提言を聞くことができ、大変実りのある意見交換会になりました。



JET 経験者との記念撮影

結びに ～継続的な日中地域間交流が重要～

さて、来年 2017 年は日中国交正常化 45 周年という記念すべき年を迎えます。また、中国からの JET プログラムは 25 周年、われわれクレア北京事務所は開設 20 周年を迎えます。

2012 年以降、一旦は大きく冷え込んだ日中関係ですが、2015 年以降徐々に改善の兆しを見せており、現在の日中関係は「上り坂」の時期と評されています。つまり、歩みを止めれば後退してしまうということ、歩みを着実に進めていくことが重要です。国家間の問題解決は簡単ではありませんが、そのような時にこそ地域間交流が重要です。今年と来年は、草の根レベルで日中友好交流の気運を高め、交流イベントなどを行うには絶好のタイミングです。クレア北京事務所にも中国の地方政府から日本の地方自治体と交流したいという相談が多く寄せられています。今後も日本大使館などと連携しながら、よりいっそう日中地域間交流を支援していきたいと思えます。